令和３年度　学校評価表

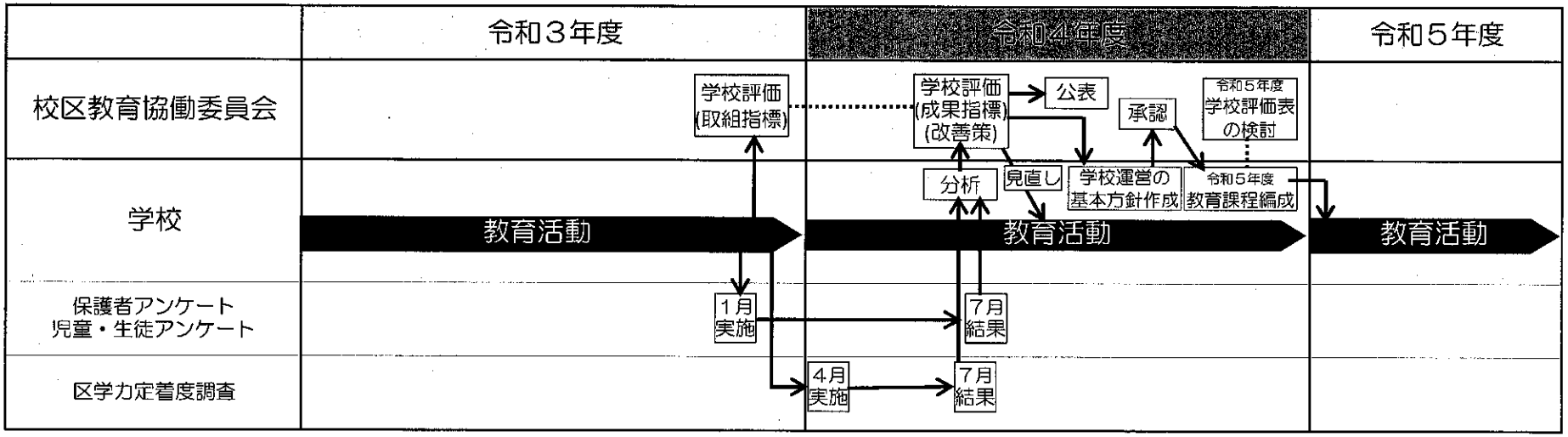
品川区立清水台小学校	校長	髙橋　壯昌
清水台小学校校区教育協働委員会	委員長	小野里　美帆

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和２年３月17日 教育長決定 要綱第７号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和３年度の学校評価が令和４年度および令和５年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和３年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標	義務教育９年間の６年間を通して「自ら学ぶ姿勢」を定着させます。 〇わかりたい、できるようになりたいという意欲の喚起 〇自力で問題解決ができる学び方の習得 〇豊かな言語感覚を育むための読書習慣の確立

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①基礎学力と授業改善	区学力定着度調査（4月実施）において、2～6学年で全教科とも標準スコアが50以上になる。もしくは前学年時の標準スコア以上になる。	区学力定着度調査（令和4年4月実施）の正答率では、国語、算数ともに、全ての学年で全国値を上回った。算数は、同一集団の成長過程を見る「経年比較」で全ての学年で前年度より伸びが見られた。	A	〇国語：総合的には、全国値をほぼ上回ることができ、基本的な国語力は身に付いている。一方で、「書くこと」に課題のある学年が多く見られる。読解力を付けるとともに、様々な場面、状況に合わせた記述活動を取り入れ、反復練習を行っていく。 〇算数：習熟度別指導を継続している成果が表れ、全体的には全国値を上回ることができた。すべての学年で、求め方を説明するための文章記述力が不足している。問題作りや理由の説明など、文章で記述する練習を授業の中に取り入れていく。
	朝の帯時間では、週3回の国語、週2回の算数を取り組ませる。計算・漢字だけではなく、文章題にも取り組ませる。	朝の帯時間について年間指導計画を作成し、「ことのはノート」、「東京ベーシック・ドリル」を活用した指導を実施した。国語では漢字の読み書き、言葉の学習、算数では数と計算を中心として反復学習に取り組ませた。	A	
	各教科で電子黒板やiPadを活用し、視覚教材の効果的な活用やICT機器を組み入れた学習活動等に取り組む。	ICT機器の効果的な活用を校内研究の中心として、授業改善に取り組んだ。児童もタブレットを使う学習に意欲的に取り組み、スキルも確実に定着してきている。	A	
②学習習慣・読書習慣	アイーチェックの質問「家で週に何日ぐらい勉強しますか」に対して、「ほぼ毎日」「4～5日」という回答が合計で70%を上回る。	「学校の授業以外で、週何日くらい勉強していますか」に対して、全学年で「ほぼ毎日」と回答した割合は一番多い。しかし、目標値の70%を上回ったのは2つの学年だけである。	B	〇4月のアンケートでは、学校の授業以外で勉強をほとんどしないと回答する割合が高かった。全学級で平日は音読、漢字、計算ドリル等の宿題、土日は自主学習にも取り組ませていく。 〇宿題を忘れがちな児童や一人で宿題に取り組むことが難しい児童に対しては、家庭と連携して家庭学習の習慣付けを行う。 〇お話会や読み聞かせ等は全学級で落ち着いて話を聞き、楽しみにしている児童も多い。感染予防対策を十分に講じて、今後も継続する。
	家庭と連携し、漢字や計算等の宿題を毎日提示し、家庭学習を習慣付ける。	全ての学年で毎日の宿題として、漢字の練習や計算ドリル等に取り組ませてきた。宿題を忘れがちな児童は固定化しており、個別に保護者へ連絡して協力をお願いしているが、長続きしない傾向がある。	B	
	図書ボランティアのお話会や教職員による読み聞かせ等、児童が様々な分野の本に親しむ機会を設け、興味・関心を高める。	感染症予防対策を十分に講じて全学年で月1回のお話会を実施した。年2回の読書旬間には、全教員による読み聞かせや、児童によるおすすめ本の紹介カードの作成・展示等に取り組み、読書に親しむようにした。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和３年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標		義務教育９年間の６年間を通して「礼儀正しい態度」を身に付けさせます。 ○規範意識の醸成と思いやり行動の推進 ○自主性・自発性・表現力の育成 ○自尊感情、自己肯定感の育成		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①規範意識	アイーチェックにおいて、「学校やクラスのきまりを守っている」の肯定率が全国値を上回る。	全学年で肯定率が90%を超え、全国値を上回った。	A	○今後も学校の規則（よいこのきまり）について適宜見直しを行い、発達段階に応じて繰り返し指導を行う。 ○市民科で学んだことを日常実践できるよう、家庭の協力（肯定的な声掛け等）を得られるように働きかける。 ○教職員がよい手本となるように、日頃からあいさつや丁寧な言葉遣いを心掛ける。
	市民科の単元学習を計画的、効果的に実施し、特に、自己管理や人間関係形成における実践力を高める。	基本的な生活習慣や社会マナーを身に付けるよう、日常での実践を大事にしている。外部講師を活用したセーフティ教室で、1、2年は不審者対応、3～6年はスマートフォンやタブレット等の安全な利用(ネットリテラシー)等を学習した。	A	
②自主性・自己理解	アイーチェックにおいて、「学校の日々の授業や活動の中で、自分は成長したなと感じることがある」の肯定率が全国値を上回る。	4つの学年が全国値を上回り、1つの学年は下回った。3つの学年が80%以上を示した。昨年度と比較して、上回った学年が1つ増えている。	B	○単学級でクラス替えがない状況では日々の成長を感じにくい面がある。縦割り班活動を日常的に実施し、高学年では役割と責任をもたせて、自主性を育てる。 ○自分で自分を認める心の育成は、全国的かつ毎年の課題である。全職員で児童を見守り、ほめる場面では分かりやすい言葉で児童へ伝える等、支援を行う。
	学校行事や委員会、クラブ活動等で、活躍できる機会を与え、進んで取り組もうとする態度を育成する。	高学年に対して、学校行事（運動会や学芸会）での係活動、クラブや委員会での委員長・副委員長としての役割と責任をもたせる取組を年間を通して行った。	A	
③自己肯定感	アイーチェックにおいて、「自分には、いいところがあると思う（思いやり、明るさ、まとめる力、責任感、努力など）」の肯定率が全国値を上回る。	成功体験と自信の項目で、1つの学年は全国値と等しく、4つの学年が全国値を上回った。全国値の3ポイント以上を示す学年もあった。	A	○周りの人から認められた経験が自己肯定感を高めると考え、成長段階に応じて適切な課題を与え、指導し、評価を行う。 ○感染症予防対策を十分講じながら、異学年での交流活動（朝のあいさつ運動、毎日の清掃、月１回の交流遊び等）を充実させる。 ○ふれあい月間を含め、友達のよさを認め、伝え合う機会をより意図的・計画的に設定する。
	縦割り班活動等を通して、成功体験や感動体験を積ませて児童に自信をもたせる。また、自他のよさについて認め合う活動を取り入れる。	縦割り班での活動（あいさつ当番、清掃等）や「ふれあい月間」での個人、学級、縦割り班のよさを見つけ伝える活動を通して、自己肯定感をもてるようにしている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和３年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標	義務教育９年間の６年間を通して「健やかな心と体」の向上と保持増進を図ります。 ○基礎体力・運動能力の向上のための運動習慣の確立 ○食への関心の向上とバランスのよい食習慣の確立 ○心身の健康を保つための基本的生活習慣の確立

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①体力向上	アイーチェックにおいて、「学校の授業以外で週に何日くらい運動していますか」で「だいたい毎日」の回答率が全国値を上回る。	3つの学年が全国値を上回り、2つの学年は全国値を下回った。1つの学年はだいたい毎日運動している割合が50%以上だった。	B	○サッカーや野球、ダンス等に親しむ児童と運動を苦手とする児童の二極化は見られる。休み時間は外で遊ぶように声掛けをし、月1回の縦割り班で遊ぶ時間を大切にして、体を動かす楽しさを味わえるようにしていく。 ○体育委員会で「家庭で行う今月の運動」として実践動画を撮り、iPadで配信し、取組回数で表彰している。家庭にも呼びかけ続ける。
	日常的に、区の体力向上施策の計画的な実施と朝や休み時間における外遊びを奨励していく。	体育委員会が「ワンミニッツ エクササイズ」の動画を撮影・配信し、家庭での取組を呼びかけた。安全管理対策に努めながら、校庭や体育館で外遊びができるように工夫した。	A	
②食習慣	アイーチェックにおいて、「朝食を毎日食べている」の肯定率が全国値を上回り、給食の残菜が全学年で10%を下回る。	すべての学年が80%以上で、5つの学年が全国値を上回った。保健・給食委員会の「残食ゼロキャンペーン」の取組が、食品ロス削減および環境意識向上につながると、環境課より表彰された。	A	○食べ物を大事にする心をもつこと、栄養のバランスを考え好き嫌いなく食べること、基本的な食事のマナーを身に付けることを目標として、食に関する指導の全体計画に沿った指導を行う。 ○年間を通して菜園ボランティアと一緒に屋上菜園での活動に取り組み、野菜や植物の育ち方に興味・関心をもたせ、野菜や植物を大事に育てる態度を育成する。
	給食の食材に触れる活動や世界の給食等の活動を通して、食に関する興味・関心を高める。	1年生がグリンピース、2年生はトウモロコシと給食食材に触れる活動を実施した。5年生は山梨県早川町と連携したオンライン授業を行い、作り手側の気持ち等を知ることができた。早川町の食材を使った「やまなしデイ」給食を2回実施し、全学年で完食した。	A	
③基本的生活習慣	アイーチェックにおいて、「生活・学習習慣」項目で肯定率が全国値を上回る。	生活習慣の項目は4つの学年が全国値を上回り、1つの学年は全国値と等しかった。学習習慣の項目は2つの学年が全国値を上回ったが、3つの学年は下回った。	B	○「生活習慣」の項目では、基本的な生活習慣や学校以外での生活の様子について、「学習習慣」の項目では、基本的な学習習慣や学習意欲の状況、学級外での勉強の様子について確認している。学力に関連して気になる児童については、児童と対話をしながら家庭にも伝え、改善を目指していく。 ○感染症予防対策により、給食後の歯みがきは実施していないが、講師による歯みがき指導は効果的であった。今後も児童が学習したことに基づいて自分で判断し行動できるような活動を継続して行っていく。
	保健指導の充実を図り、体の仕組みや成長、清潔を保つことなどに関する正しい理解と実践力を身に付けさせる。	学校歯科医と東京都歯科衛生士会の歯科衛生士をゲストティーチャーとして2年生に歯みがき指導を実施した。保健室前の掲示板には毎月様々な教材を掲示し、主体的に学べるよう工夫した。	A	
	新型コロナウイルス感染症対策において、感染症基本行動3か条（「3つの密」の回避、手洗い、咳エチケット）を徹底する。	教室・体育館・廊下・階段等の換気、手洗い・トイレ等の蛇口の消毒、清掃用具や児童机・椅子の消毒を日常的に実施した。給食では黙食を徹底し、授業や行事で共有するものを使用する際は手袋を着用する等、感染症予防に努めた。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和３年度　学校評価　品川区立清水台小学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標		義務教育９年間の６年間を通して「人権教育」を徹底させます。 ○全教育活動を通した人権教育の徹底 ○組織的にいじめ問題に対応する体制の確立 ○ふれあい月間を活用したいじめアンケートの実施		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①学級風土	アイーチェックにおいて、「学級の規範意識や学級の絆」の肯定率が全国値を上回る。	規範意識の項目では全ての学年で80%以上を示し、全国値を上回った。学級の絆の項目では3つの学年で95%以上を示し、4つの学年で全国値と等しいか全国値を上回った。	A	○学級風土の結果から、学級のきまりが守られ、学級が落ち着いた状況であるか、学級に対する児童の評価を担任と専科教員で確認し、改善に向けて適宜話し合い、対応していく。 ○生活指導夕会で各学級の様子を報告して情報共有し、ルール（規律）の守られている落ち着いた学級環境、誰もが安心して過ごせる学級づくりに学校全体として取り組んでいく。
	生活指導夕会等で各学級の実情や要配慮児童への対応を共通理解し、組織的に対応する。	学習面や生活面での配慮児童に関する情報共有を適宜行い、児童理解に努めた。共通指導・支援が行えるように心掛け、全職員で全児童を見守る体制づくりに努めた。	A	
②リスク管理	アイーチェックにおいて、「いじめのサイン」の肯定率（良好な回答）が全国値を上回る。	いじめのサイン（冷やかしやからかい、無視や悪口、暴力、金銭にかかわるいじめの有無）の項目では、全ての学年で全国値と等しかった。上回る学年はなかった。	B	○生活アンケートやアイーチェックの結果を今後も活用し、さらに児童理解を深めていく。 ○一人一人の子どもが安心した学校生活を送れるように、全教員で見守る体制を継続する。 ○いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向け、これまでの取組を検証し、工夫していく。 ○若手教員が多い本校では、生活指導夕会で報告する中で、いじめにつながる事案を見逃さない力・意識を身に付けるようにしていく。 ○生活指導台帳への記載を位置付け、経年で見守る体制を継続する。
	いじめを含めた生活指導上の問題に対して、生活指導部を中心に組織的に対応する体制を確立する。	週1回の生活指導夕会で情報を共有し、場合によっては校内委員会を開く等、組織的に対応している。校外生活での問題も関係機関と連携した対応を心がけた。生活指導台帳には必ず記録して、継続対応ができるようにしている。	A	
	スクールカウンセラーや関係諸機関と連携し、早期対応・未然防止に努める。	スクールカウンセラーや巡回相談員が日常的に授業観察や支援等を行っている。生活指導夕会ではすまいるスクールやスクールカウンセラー等からも報告し、情報を共有して早期対応・未然防止に努めている。	A	
③自他の尊重	アイーチェックにおいて「友だちからほめられたことがある」の肯定率が全国値を上回る。	他者からの評価の項目は3～6年が該当し、3つの学年で全国値を上回った。1つの学年は全国値の2ポイント以上を示した。	A	○アイーチェックの結果から、学級の認め合いの状況を把握する。規範意識と他者を思いやる気持ちと、自分の気持ちや考えを相手に伝える力とのバランスを日頃から確認し、学級経営に生かしていく。 ○様々な教育活動の中で、自分が人に必要されている経験や人の役に立つ経験を増やす。ふれあい月間の取組を今後も生かす。
	ふれあい月間では、友達のよさを見つけ合い、認め合う取組を行う。	1学期は友達、2学期は学級、3学期は縦割り班、それぞれのよいところをテーマとして、児童一人一人に書かせ、学級ごとにまとめたポスターを廊下に掲示した。各学級で代表児童を3名決定し、昼の校内放送で紹介する活動を実施した。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和３年度　学校評価　品川区立清水台小学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標		義務教育９年間の６年間を通して豊かな情操を育て「愛校心や地域愛」を育みます。 ○地域と連携した学校行事や地域行事の推進 ○日本の伝統・文化教育の推進 ○全校児童による表現活動の充実		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①地域との連携	保護者アンケート（1月実施）で「学校・地域等との連携」について、肯定率が平均値を上回る。	「品川コミュニティ・スクールは良い取組だと思う」（令和2年度と3年度では質問項目の変更があった）の肯定率は全体で89%で平均値を上回った。（区平均86%）	A	○感染症予防対策のために、地域行事・PTA行事の大部分が中止となった。しかし、地域のハロウィンイベントや焼いも会は実施でき、児童・保護者から好評だった。予防対策を講じながら、連携行事を工夫して実施していく。 ○菜園ボランティアの菜園活動、図書館ボランティアの蔵書点検・図書清掃、校外学習への引率ボランティア等、今後も学校便りや学校ホームページで宣伝し、活動の充実を図る。
	地域人材をゲストティーチャーとした授業・教育活動を全学年で年間を通して実施していく。日常的に、学校支援ボランティアを募り参画していただく。	校区教育協働委員の声掛け協力があり、菜園ボランティアの活動が始まり、生活科や理科での栽培活動への協力を得ることができた。また、生活科や社会科のまち探検、お店調べ等の授業への学校支援活動を行うこともできた。	A	
②国際理解・表現活動の充実	児童アンケートで「学校や地域、我が国や諸外国の伝統文化について理解を深めようとすることができる」の肯定率が平均値を上回る。	「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う」（令和2年度と3年度では質問項目の変更があった）の肯定率は60%（区平均72%）で下回った。全学年での留学生交流ができなかったことも要因の一つと言える。	C	○今年度も感染症予防対策により、本校の特色である「留学生との交流活動等」の実施ができなかった。大使館の方々や留学生をゲストティーチャーとして招くことは難しくても、今後はオンライン等での実施も考えながら、様々な文化や歴史、生活等を学び、多様性や文化の違い等を理解する学習を継続していく。 ○感染症予防対策を十分に講じながら、地域や保護者、外部団体など、様々な講師を活用した授業を今後も継続して、視野を広げさせていく。 ○保護者や地域へは学校便りや学校便りや学校ホームページ、タブレット端末を活用して、児童の表現活動を発表したり広報したりしていく。
	国際交流活動を通して、外国の文化や立場を理解し尊重する態度を養う。また、茶道や和楽器に親しむことで日本の伝統と文化への理解と誇りを育てる。	4年生はTGGでの1日英語体験を行い、外国人スタッフと交流を楽しんだ。5年生は和楽器（箏）、5、6年生は柔道と日本の伝統文化を学ぶ授業を行い、直接体験することで理解を深めた。1～3年生への取組が十分にできなかった。	B	
	運動会でのマーチング演奏や表現運動、学芸会に向けた取組を通じて、表現する楽しさや喜びを味わい、理解させる。	5、6年生は運動会およびPTA連合会主催のしながわドリームフェスティバルでマーチング＆フラッグの演奏と演技を披露し、校内外の発表の場を経験した。学芸会はマスク着用の舞台となったが、保護者に直接参観していただくことができた。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成